ニュージーランド北島のかんらん岩捕獲岩におけるコスモクロア成分を多く含む透輝石の二次的生成

Secondary formation of diopside with high kosmochlor component in peridotite xenoliths from North Island, New Zealand

池端　慶[1]，荒井　章司[1]
Kei Ikehata[1], Shoji Arai[2]

[1] 金沢大・理・地球
[1] Dept. Earth Sci.,Kanazawa Univ, [2] Dept. Earch Sci., Kanazawa Univ.

ニュージーランド北島の第四紀ハワイアイト中に含まれるマントル捕獲岩中からコスモクロア成分を多く含む淡緑色の透輝石を発見した。この透輝石はクロム（最大5.1重量%）とナトリウム（最大3.2重量%）に富む。また希土類元素も比較的多く含み､始原的マントルの値により規格化された透輝石の希土類元素のパターンは緩やかに軽希土類元素に富む左上がりの分布を示す｡コスモクロア成分を含む透輝石はしばしばクロムスピネルの周囲に形成しており、一般にアルミに乏しく（1.2 重量%以下)、シリカに富む斜方輝石を伴う。その斜方輝石は、周囲の橄欖石を置換している。組織と鉱物化学組成の特徴は、この透輝石と斜方輝石はナトリウム、カルシウム、シリカ、希土類元素に富んだメルトあるいはフルイドによる交代作用により二次的に形成されたことを示唆する。